

## 大草谷津田いきものの里自然観察会

### 大草谷津田で生き物の赤ちゃん探し

藤田英忠（東金市）

日 時：2019年6月16日（日）10時30分～12時 天気：雨上がり

参加者：大人8名、子ども7名 計15名

担当指導員：木下順次 藤田英忠

前日の雨が朝方あがり、天候は丁度雨上がりの様相。本日は大丈夫。谷津田の生き物は雨上がり大好きなのだが、雨が上がって間もないので、まだまだ、生き物の赤ちゃんたちは慎重であるかのように、直前下見ではほとんど出てこない。これは、沢山の目、子供の視線も大事になってくる。観察会本番に期待した。

ところが、去年は40名ぐらいの非常に多くの参加者で賑わった観察会であったが、今年は天候だけでなく地元の小学校の参観日と重なり、小学生親子の姿が去年に比して非常に少なかった。

動植物たちはこの時期、卵は孵り、木の種は発芽。谷津田は生き物の幼生や親子たちの天国になっている。当然この弱い幼生を襲う捕食者もいて賑やかなはずの谷津田。今年はどうだろうか。このテーマの観察会は今年で二回目。

まずは去年に引きつづき、入り口付近のシラカシの枝先の小さな緑の粒のようなものを見てもらった。これがドングリになるのだ。ドングリはみな知っているが、赤ちゃんを見たのは初めて。別のシラカシに葉先が巻いているのを見つけた。「これは何でしょう？」みな首を傾げ戸惑いの表情。昨年来た方はおられない。オトシブミという小さな虫が葉の先端に卵を産んで巻いたものと説明すると一様に感心していた。次に定番ニッポンマイマイの赤ちゃん探しに入る。

林に入るとアオキ、ミョウガなどの葉に小さなあかちゃんカタツムリがいるはずだが、なかなか見つからない。赤ちゃんの大きさがわからない参加者。指導者がやっと見つけたニッポンマイマイの赤ちゃんに、皆その小ささにびっくり。2ミリぐらいでもきちんとピラミッド型のニッポンマイマイの姿。そうすると、次々とマイマイ赤ちゃんを見つけてくれた子供の親御さん。ヒダリマキマイマイの赤ちゃんやミスジマイマイの赤ちゃんも見つかりちょっと得意顔。それでも年々少なくなってきたニッポンマイマイにはちょとした危機感を感じてしまったのは私だけではない。

林を抜け田んぼや畔に出ると、ニホンアカガエルの幼体やヒキガエルのオタマジャクシ、アメンボ、コオロギ、カマキリ、シデムシの幼体、オトシブミ揺籃などをめいめい捕まえてはみんなで観察した。子供たちは子ガエルを捕まえて大はしゃぎ。ハンノキ近くでは、カメラを持った二人の青年が羽化後の新鮮な美しいミドリシジミの写真を撮っていた。探せばまだまだ見つかるが、時間がない。

最後は指導員が田んぼのオオタニシの腹から赤ちゃんを取り出して観察してもらった。オオタニシの雌は卵を体内で子貝になるまで育ててから産み落とす卵胎生。これを観察するのに1匹のオオタニシに犠牲になってもらったが、良い勉強になったと思う。その目がなれると、すでに産み落とされた子貝が親貝の側にいることが分かる

参加者の感想は、子供たちから「オオタニシにビックリした」「マイマイの子どもは小さくかわいい」など。大人からは「何度か参加して楽しみの観察会でした」など。指導者は「この赤ちゃんたちが秋には大きくなっているものが多いので、観察会は楽しみにしてください。」いきものの赤ちゃんが生き残り、親にまでなることの大変さを、感じてくれる観察会が秋にはあることを告げた。